

初夏の風

【解説】

二〇一七年十二月十日、第3回今藤政太郎作品演奏会（紀尾井ホール）において、クラシック歌手の波多野睦美氏が、日本の歌曲・邦楽をうたった「今藤政太郎作曲 小品歌曲集」より。

川上澄生（一八九五～一九七二）の木版画「初夏の風」（大正十五年・一九二六）にある詩に、政太郎が曲をつけた。〈「かぜとなりたや」の句が、西洋音楽のレチタティーヴォのように、かなわぬ恋の想いを託してまず発せられる。やがて、化身の風が「まへに」はだかり「うしろより」吹く「かのひと」の雅な風情が、箏のつまびきと共に立ち昇ってくる。〉（磯山雅氏による曲目解説より）

平成九年（一九九七）作曲。当演奏が公開初演となった。